

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	1631
		決裁期日	令和5年8月22日
名 称	令和5年度 第2回安平町未来創生委員会		
日 時	令和5年7月31日 午前・ 午後 3時00分～5時00分		
場 所	総合庁舎 大会議室		
出席者	委 員 未来創生委員会委員・外部有識者 15名 安 平 町 (政策推進課) 渡邊課長、山口参事、木村課長補佐、高橋主幹、笹山主査 主事吉田		
会議概要	<p>1 開会 (進行：政策推進課長) ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委嘱状交付 ～省 略～</p> <p>3 町長挨拶 ◇第5期目となる未来創生委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。 ◇新型コロナウイルスが5類に移行となってから、直近の1か月間の安平町の動きを見ても、段々と人の流れが増え、コロナ禍では実施できなかった行事を行うことができた。今後もまちづくりの取組みとして続けていきたい。未来創生委員会は、まちづくりの幅広い全般のなかでテーマを持ちながら、町の重要計画の策定・進捗状況等の把握や審議をしていただくこととなり、安平町が抱えている地域課題の解決に向けて、意見やご助言を頂きたい。</p> <p>4 安平町未来創生委員会委員及び外部有識者のご紹介 ～省 略～</p> <p>5 議事</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選出について【P3】 ◇安平町未来創生委員会条例第4条に基づき選出。 (副委員長は委員長より指名)</p> <p>(2) 安平町未来創生委員会の役割について【P4】 (説明：政策推進課) ◇資料に基づき説明 →質疑なし</p> <p>(3) 第2次安平町総合計画 中期基本計画の進捗状況について【資料1】 (説明：政策推進課) ◇各分野について、要点をまとめながら説明。 ◇質疑応答要旨</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><委員> 町職員の地域サポート制度の具体的な取組みとはどのようなものがあるのか。</p> <p><政策推進課> 役場と自治会を繋げるパイプ役になっていて、地域生活の中で会話ベースで相談するものになっている。</p> </div>		

<p><政策推進課> 職員も役員になっていることから、地域での困りごと（看板が倒れているや、ごみが落ちているなど）の御用聞き、連絡係のようなもの。</p>
<p><委員> 鉄道資料館の開館回数とあるが、これはどこから拾ってきている数字なのか。</p>
<p><政策推進課> 主にイベントで開館している数をカウントしている。</p>
<p><委員> 春から11月までの期間は常時資料館に入れるようになっているが、冬の期間の平日は閉館して、訪れた人がガラス越しでしか見ることができない。冬の期間も常时会館してはどうか。</p>
<p><政策推進課> 冬の期間は寒い空気が本館の方に流れ込むため、運営開始時には閉館するとしていたと認識している。今後冬の期間開館するかどうかは、これから検討していきたい。</p>
<p><外部有識者> 子育てに不安、負担を感じる保護者の割合とあるが、これはどういう調査を行ったのか、何に対しての不安なのか。</p>
<p><政策推進課> 安平町子ども・子育て支援事業計画の中間見直しでアンケート調査を実施している。不安の割合が増えていて悪化しているように見えるが、教育委員会の評価としては、今までは不安の要因の回答として「子どもと向き合う時間がない」が多かったが、今回の調査でこの項目の回答は減った代わりに、子どもに向き合う時間が増えた中での不安が増加したものとみている。</p>
<p><外部有識者> 全国学力・体力調査について、都会と比べて習い事や塾などが充実していない環境の中で一定数の成果が上がっているが、この数値について、町はどのように考えているのか。</p>
<p><政策推進課> 特別なことをしているわけではないが、基礎基本を大切にされた教育を行っているので、どのような環境でも成果がでるものと考えている。</p>
<p><外部有識者> 子どもチャレンジ塾の参加者があまり伸びていないが、何か要因はあるのか。</p>
<p><政策推進課> こどもチャレンジ塾は、あびら教育プランに沿った施策を進めるため、実施回数を減らしている。</p>
<p><委員> 環境保全型農業の取組面積とあるが、全体の何%なのか。</p>
<p><政策推進課> 環境保全型農業とは、化学農薬と化学肥料を減らすことを目的としたもので、必ずしもオーガニックの有機農家とは限らない。割合については全体のおよそ1割程度。</p>
<p><委員> 他の場所ではオーガニックの認定制度を設けていて、商品をブランド化しふるさと納税返納品や定期便などを行っている事例もある。もっと具体的な取組みをお願いしたい。 次に造林面積について、どのような対策を講じているのかお聞きしたい。資金集めの方法として、土地・金銭の寄付やクラウドファンディングなどがあると思う。</p>
<p><政策推進課> 土地所有者と交渉は進んでいて、資源不足や価格などの金銭面的な問題は発生していない。造林については年次計画に沿って優先順位の高いものから行われている。</p>
<p><政策推進課> 課題の一つとして相続問題が根底にあり、なかなか物事が進展しない状況があるこ</p>

<p>とをご理解いただきたい。</p>
<p><委員> 総合戦略の評価について、結果を集計してでたデータがどこに活用されているかが分からず、評価結果の取りまとめの必要性を感じられないため、作成時間がもったいないと思う。周知の方法として、あびらチャンネルの番組で集計結果を公表して町民に周知してはどうか。</p>
<p><政策推進課> 計画を進めていくときに、比較のために数値は必要になってくる。計画の評価の見せ方については検討していきたい。</p>
<p><委員> 森林のことや、環境保全型のことが出てきたが、総合戦略の中には環境に対しての視点が欠けている。コロナ禍や異常気象があるなか、世界は生物多様性にシフトしている。安平町でも欠けているものとして加味してもらいたい。オーガニックビレッジ構想の計画はどのように作るのか。</p>
<p><政策推進課> オーガニックビレッジ構想は安平町有機農業推進協議会と議論を行いながら、計画の内容を練っている。</p>
<p><委員> 有機農業への取組みを加速してほしい。また森林と人が、かけ離れていくイメージがある。森林を利用することが少ないし、自動車の排気ガス量が昔から変わらないことや、いまだに化学燃料に頼っていることが問題だと思う。この現状を改善できるような取組み計画に盛り込んでほしい。</p>
<p><政策推進課> 計画の考え方を整理しながら協議を行い、できる事から始めていく。</p>
<p><委員> 地域資源を活用した特産品の商品化件数とあるが、商品化されたものの中で実際にふるさと納税や道の駅の売り上げの増加など町の経済効果としてプラスになっているものがあるのか。また、町内の複数の業者が協力しコラボ商品のようなのがあるのかどうかお聞きしたい。</p>
<p><政策推進課> ふるさと納税に商品化として増えている。現在はチーズが主力となっていて、有機農家のトマトのジュース、チキンなど徐々に増えてきている。課題としては、道の駅で販売している商品でまだ製造元が町外で作られているものが多く中々地産地消できていない。コラボ商品については、NPO法人とあさ村がハーブティーをふるさと納税として商品をだしていたり、現状多くないが増えている。福祉連携による商品化はまだ進んでいない。</p>
<p><委員> 地域内でビジネス機会があるマッチングが増えていくと、より経済効果が広がるのではないかと思った。</p>
<p><政策推進課> 令和4年度からコンサルティングを入れて商品を商品者に届けるまでの流通させる力をつけていく事業を行っている。その中でそれぞれの得意分野で起業間連携が取れるようにしていきたい。</p>
<p><委員> 自主防災組織の目標値が設定されているが、組織を作ることが目標に見える。組織を作った後組織を機能させるために役場の防災担当が定期的に出向き、災害時には役場や隣の自治会と連携をとれる環境づくりが必要になる。</p>
<p><政策推進課> 地域と密に連携することが大事だと思うので担当課にお伝えする。地域によっては、形が馴染まず、頭打ちになっていると聞いている。</p>

(4) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について【資料2】

* 第2期総合戦略の進捗状況・評価・検証

(説明：政策推進課)

◇総合戦略が今年度で改訂を迎えることから、令和3年度から令和4年度の評価検証を整理している。

◇全ての分野で達成・改善中に占める割合が大きくなっていること、また国が掲げる地方創生関連の取組みを積極的に進めており、全体的に概ね順調に進んでいると評価する。

◇分野ごとの詳細については、別添の資料のとおり。

◇質疑応答要旨

<委員>

地域医療の維持確保の具体的な取組みを教えてください。

<政策推進課>

夜間休日医療や救急医療体制の確保、病院の補助や専門員などの医療人材の確保があげられる。

<委員>

熱中症は2, 3日後に発症することがある。木曜、金曜にかかった人が土日に発症することもある。苫小牧に搬送となると、肉体的負担が大きくなるため、ぜひ医療体制の改善をお願いしたい。

<政策推進課>

夜間休日医療の確保は、町の課題と認識しているので実現に向けて取り組んでいく。

<委員>

千歳市の半導体の工場ができる関係で、住宅の需要が安平町にも出てくると思う。半導体の工場に向けて住宅を建てる場所を整備する予定はあるのか、また千歳からの公共交通機関がとても便利と感じるが、安平町はこのことについてPRはするのか。

<政策推進課>

分譲地についてはスピード感を持って取り組んでいる。宅地についてはニーズがどのくらいあるのかを、もともとの需要数を確認して取り組んでいく。公共交通については外から見ると便利に見えるが、実際に町内で利用すると不便に感じるという評価をもらうことが多い。日頃から改善しようとしているところで、見直しを含めてアピールをしていく。

<委員>

雇用分野において多く存在する、町外から町内へ通勤する方に向けたアプローチが重要とされているが、これまでの取組みと今後の取組みについて教えてください。

<政策推進課>

今後どうするかについては検討中で、中期計画の数字の取り方が狭く数値が低くなっている。見せ方として指標の取り方を変えてみたり、情報紹介WEBサイトのくらしごとで、企業アピールや誘致を行っている。

<外部有識者>

ゼロカーボンの対策として国の助成金を活用してはどうか。道の住宅対策としてCO2削減の住宅計画を提案すれば、道が家を建ててくれる制度があり、このような助成金の制度を戦略的に使用することで、財源の確保にもつながるのではないかと。

<政策推進課>

助成金や交付金などは財源確保に向け、各課に照会しているところ。道のゼロカーボンの対策については初耳だったので、参考にさせていただく。

6 その他

- ・ 次回は9月上旬を予定。

7 閉会 (17:00)

以上、終了。